

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は職員会議の際、詳しく説明を行った。それを踏まえユニットで具体的な取り組みを話し合い、毎月短期目標を掲げ取り組んでいる。毎月のユニット会議で実践状況を確認している。	事業所の理念に向かって、今年度の目標と毎月の短期目標を掲げ取り組んでいる。今、職員で頑張らなければならない事と入居者の状態を考慮された目標となっている。今月は、外出支援等を短期目標に掲げ地域との繋がりを大切にして取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が散歩すると挨拶を交わしたり、野菜やお花など頂いている。地域行事に参加させて頂いたり、施設行事に来園して頂いている。町内会費を納入しており、回覧物が配られて来たり回覧をお願いしたりしている。	散歩に出掛け、様々な関わりは地域の中で生活している感覚を大切に感じられるよう支援している。納涼祭や秋楽祭が実施されたり、事業所内にある「介護予防拠点」を開放し保育園児の踊りやボランティアの応援でお彼岸のおはぎ作りを楽しんでいる。この場所を、まるで「公民館でしてる」という言葉の通り賑やかな交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生などの体験学習やボランティア活動の受け入れを行っている。地域の人に介護予防拠点を開放し、体力づくり支援センターの『高齢者に対する運動』などに使用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回継続し開催し、事業実施状況等を報告したりボランティアのお誘いなどしている。また災害時の協力体制を築く際は相談に乗って頂いた。地域駆け付け人を交えた総合防災訓練の話し合いが進んでいる。	運営推進会議を通して、おはぎ作りのボランティアの誘いを回覧板に入れたり、火災に際しての「地域駆け付け人」の協力等、地域住民や関係者からの積極的な働きかけで、事業所の理解者や応援者が増えサービス向上に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員から毎回参加してもらっている。意見やアドバイスを頂き現状を聞かせて頂いている。	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員が入っており、市町村とのパイプ役となり協力体制を整えている。また、運営推進会議の議事録は、市町村にも提出し関係作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修会に参加している。全員の参加は無理がある為、ユニット会議にて復命研修を行っている。身体拘束は行っていない。玄関やベランダは施錠していない。	研修に参加した職員は、ユニット会議にて復命研修を行うことで振り返りの認識を深めている。法人のマニュアルを基に事業者に適したマニュアル作成がなされており、職員に周知し拘束のないケアの統一が実践されている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会に参加している。全員の参加は無理がある為、ユニット会議にて復命研修を行っている。言葉使いには十分注意し虐待防止に努めている。	研修で学んだことを復命書にまとめ、スタッフ会議にて他職員に伝達している。日頃の入居者の様子に注意を払い、個々の暮らしを理解しながら、その人に必要な支援と温かい言葉かけ、見守りに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修会に参加している。全員の参加は無理がある為、ユニット会議にて復命研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学に来られた際に契約書や重要事項説明書の説明をしている。自宅訪問もさせて頂き、疑問や不安に思うことは相談し合っている。契約の際は更に詳しく説明し、お互いの理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口設置の説明を行っている。面会時や電話連絡時など、要望や意見も伺っている。事例についてはユニット会議等で情報を共有し検討をしている。	些細な意見や要望でも申し出てもらえるよう日頃から入居者・家族に声をかけるよう心掛けている。居室担当者を中心に連絡を図り、寄せられた意見等は内容を共有し、対応することで運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは毎月全員参加のユニット会議や人事考課面接、の機会に意見を聞くようになっている。様々な意見は、毎月1回の事業会議で報告し、その内容はユニット会議で職員に伝えている。	各ユニットに連絡ノートがあり、書きこまれた意見や提案をもとに緊急な対応がなされている。必要な場合は即話し合いが行われている。、面接の機会を設けており、個々の達成度について話し合ったり、職員の思いや意見を運営やサービスの改善に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規定等に基づいて運営している。人事考課制度で自己目標を掲げ、やり甲斐を持てるように取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、法人研修は定期的に行われており、法人外研修にも職員の力量に応じ随時参加している。その後のユニット会議にて、参加出来なかった職員の為に、随時復命研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県認知症高齢者グループホーム協議会や魚沼地域グループホーム連絡会の研修会などに参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から各種機関から情報を貰い、事前面接では本人の意向も時間をかけて伺っている。なるべく施設見学にも来て頂き、不安に思う事などは丁寧に説明し安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設側からの一方的な説明にとどまらず、ご家族の不安や要望などの理解に努める。しっかり話し合い、職員への情報提供を行うと共に、ご家族から安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所や家族から情報収集を行い、入居検討委員会でグループホームへの入居が適切なのかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見極め、意志を尊重し、調理や洗濯干しや洗濯たたみなど、職員と共に行う機会を持つよう努めている。作業しながらの会話も大切にし、一緒に生活していると感じて頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日用品の補充や病院受診など、ご家族にお願いしている。ご家族の面会が多く、その都度日々の様子をお伝えしたり、相談もさせて頂いている。月に1度、体調面や施設での様子などお手紙で連絡している。	受診は基本的には家族に付き添いをお願いしている。担当者からの毎月のお手紙は、入居者の様子を家族に伝えることで、安心と継続した支援となっている。衣替えや居室作りなど、家族のできることについて協力を得ながら、共に支える関係作りを築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけの病院や馴染みの理美容店を利用されている。家族や親戚、友人や近所の知人まで多くの方が面会に来られる。墓参りにも行かれる方もいる。	親戚や兄弟、知人の面会等はゆっくり過ごせる明るい雰囲気づくりがなされている。また、馴染みの理美容店や墓参り等、家族と共に出掛け本人が築いてきた関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士はすでに馴染みの関係が出来ている。親しい方のお部屋を訪問され一緒にテレビを観られたりしている。新入居の方や人付き合いの苦手な方には、職員が間に入り関わりのお手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ施設内の特養に入居された方には、時々面会に伺い、喜ばれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に一人ひとりの希望ややりたい事、欲しい物や食べたい物など、会話の中から意向を伺っている。ご家族に伺ったり相談に乗ってもらったりする。ユニット会議で話し合っている。	入居者との日常の会話や行動、入居者同士の会話などから思いや意向の把握に努めている。希望にはすぐ対応できるよう、検討事項ノートに記入し、その日のうちに話し合いが行われている。部屋の掃除や入浴時など個別にゆっくり話をする時間も大切にしている。把握した情報は記録や申し送りで職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネからの情報を基に、ご本人やご家族から話を伺っている。自宅も拝見させて頂き家具配置の参考にしている。その後は必要時に、ご本人やご家族の面会時やお電話などで伺っている。	入居前に自宅への訪問を行い、その人の生活歴や習慣などの暮らしぶりについて把握している。利用後も入居者・家族、知人との面会時等で聞き取りを行い、情報を積み重ねながら一人ひとりの理解に努めている。それまで行っていた畑仕事を行ってもらったり、人形作りや手芸を楽しみながら続けている利用者もおられる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりにやりたい事や要望など意向を伺っている。日々の基本的な健康確認(バイタル測定・排泄チェック・体重測定)や日常の係わりの中で把握した情報は、職員間での申し送りを密にし記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を反映した介護計画を作成するよう勤めている。計画作成担当者を中心に、職員と話し合っ現状に沿っているか確認している。	入居者・家族の意向を踏まえながら計画作成担当者が担当職員等の意見を聞いて作成している。実施状況は日々の記録に残し、詳細に記載された記録から課題を明らかにして介護計画に反映させている。毎月のモニタリングと3か月ごとの見直しを実施している。また、今後は施設全体で個別ケアに力を入れようと、24時間シート作成に向けての研修を積み重ねているところである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記載し、申し送り事項は日誌や連絡帳を活用し情報共有している。疑問や気付きは検討事項ノートに書き込み、ユニット会議やスタッフ会議で話し合いや見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や床屋などの送迎、又はイベントへの参加など、必要時は事務職員から応援してもらう事もある。その時々に応じ業務内容を変更し、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している	地域の祭りや行事には出来るだけ参加させて頂いている。小学校の運動会や保育園児との交流、公民館より本を借りて来たり、商店や理髪店などの利用、ボランティアの余興なども楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけの病院に受診されている。基本的に家族が受診に付き添うが、状態の変化や細かい病状はノートを使用してかかりつけ医と連絡をとっている。	入居後もこれまでのかかりつけ医を引き続き受診している。受診の際は家族に付き添いをお願いしているが、緊急時は家族と連絡を取り合い、適切な医療を受けられるよう事業所で必要な支援を行っている。本人の様子や相談事項は専用のノートに記載して、受診時に家族を通じて医師に伝えたり、通院後は家族から報告を受け情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師による医療連携をとっている。毎週1回一人づつ気になる症状や状態を書き出し、看護師から対応や助言をもらっている。受診についても専門的なアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院に必要な情報を提供している。ご家族から様子を伺ったり、病院関係者から情報を頂いている。医者から病状の説明時、許可があれば同席させていただくこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重篤化した場合など、グループホームで出来る事と出来ない事を説明している。老衰が著しく進行して来た場合、早い段階でご家族と相談し、法人内の他事業所とも連携するようになっている。	重度化した場合や終末期については「重度化・終末期対応指針」で事業所としての基本的な考え方を明文化しており、契約時に入居者・家族に口頭で説明している。体調の変化があった場合は、本人・家族の思い、医師の判断を踏まえながら、関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿った対応を行うようにしている。急変時や事故対応の施設内研修や法人研修に参加している。その後ユニット会議にて復命研修を行っている。また、7月から施設にAEDが設置された。	急変時や事故発生時のマニュアルや緊急連絡網が作成されており、職員がいつでも確認できるように各ユニットに整備されている。また、看護師が講師となって応急手当等の研修会も実施されている。7月には事業所の玄関前にAEDが設置され職員を対象に説明会も開催された。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員が中心となり、災害時の避難訓練を計画し実行している。運営推進会議を通じ地元町内会の協力で災害時駆け付け人が決まり協力体制が出来上がった。今後も予定通り避難訓練を積み重ねて行きたい。	防災委員が中心となり計画的に避難訓練を行い、避難方法を身につけられるよう取り組んでいる。運営推進会議でも災害時の避難方法等、対応について話し合っており、地域住民による「災害時駆け付け人」の参加を得た総合防災訓練の実施が11月に予定されている。食料や飲料水など災害に備えた備蓄品も整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や意志を尊重しプライバシーに配慮した対応を心掛けている。居室ドアは施錠出来その方の家と考え、訪室時は必ずノックを行っている。トイレ誘導の声掛けも目立たないように注意している。	「入居者の人格の尊重」を年間目標とし、入居者の尊厳や誇りを損ねないよう心がけている。特に言葉遣いには十分気を付けており、職員間で注意し合って対応している。記録等の個人情報も鍵が掛かる中に保管され、プライバシーの確保が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択や自己決定出来る自由を喜びや楽しみとして感じてもらえるよう努めている。遠慮や拒絶のある方もいるので、対応や言葉使いに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレク活動、イベントや祭り等、声はかけるが参加は自由にして頂いている。職員の都合での無理強いはしていない。ご本人のペースを優先している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方は、毎日着たい洋服を選んでい る。以前からの行きつけの店で散髪したり、 衣類なども個別に買い物に行ったりしてい る。好みのシャンプーや石鹸など化粧品も 使われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや刻み、配膳などして頂いて いる。調理方法の助言を頂く時もある。嫌い な食品は代替えを提供し、食べたい物を伺 い献立に取り入れている。祭や行事には、 出前を取ったりして楽しんで頂いている。	毎日の献立は、入居者の希望を踏まえて各 ユニット職員が作成しており、定期的に併設 施設の栄養士による栄養チェックも行われて いる。食事の盛り付けや配膳など、その人の できることを一緒に行っている。箸や茶碗、湯 飲みは本人の愛用の物を使っている。また、 外食に出かけたり、毎日ではないが入居者と 一緒に買い物に行くことなども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	極端に摂取量が少ない方は口当たりの良い 食品を提供したり受診時に報告をしている。 あまり水分を摂らない方には色々な飲み物 や手作りゼリーなど用意する。水分摂取量 を記録する場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	在宅の頃からの習慣が続いている方が多 い。一人ひとりの状態に合わせ、声かけや 誘導や介助を行っている。口臭予防をして いる方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にそれぞれあるトイレを使用されてい る方が多い。なるべくオムツをせずに居られる よう、日中は布パンツに履き替えて頂いたり している。プライバシーに配慮した声かけや 援助を行っている。	各居室にはゆったりとしたスペースのトイレ が設置されている。自立している方が多くお られるが、身体状況に応じて手を差し伸べた り、排泄用品を使い分けるなど、自尊心を大 切にしながら個別の排泄支援が行われてい る。このような取り組みにより、入居前の状 況から排泄状態が改善された方がおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをしている方もいる。日頃から水分を多目に摂取して頂くようにしている。下剤を処方されている方もいる。軽い運動や散歩などにお誘いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めず無理に入浴してもらうのではなく、一人ひとりの希望に沿うよう楽しみの一つとして支援している。菖蒲湯や柚子湯など季節に合ったお風呂も楽しんで頂いている。	午後に入浴時間を設けているが、入居者一人ひとりの希望や習慣、タイミングに合わせて入浴を楽しめるようマンツーマンでゆっくり対応している。浴室は家庭的な個浴で、重度の利用者用にリフトも取り付けられている。また、洗い場と脱衣場が床暖房で暖かく、安全・安楽に入浴できる環境となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムを尊重し、自由に昼寝や休息を取っている。使い慣れた寝具を持って来ている方もいる。室内温度の調節には注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬カードの最新版の綴りを作り、効能や副作用など常に確認出来る様にしている。マニュアルに沿って服薬介助を行い、事故の無いよう努めている。夜間眠れない方など、好みの飲み物を提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・配膳・洗濯物干し・たたみ物・新聞取り・モップかけなど、自分の仕事として張り合いを持って行われている方もいる。買い物に出かけたり地域の行事に参加したり、ドライブに出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に買い物や散髪に出掛けている。ご本人の希望を把握し、ご家族から協力して頂く場合もあり、外食や外泊など自由にして頂いている。季節ごとに花見や祭りや、地域のイベントにも出来るだけ出かけるようにしている。	天気の良い時には、建物周辺の散歩や買い物、地域行事への参加、畑での野菜作りなど、できるだけ戸外へ出かけられるよう支援している。また、入居者の希望により職員がお墓参りに付き添ったり、受診後の外食や外泊など家族にも協力を得ながら外出を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布の管理をされている方もおり、受診や買い物の際、ご自分で支払されている。施設の自動販売機で好きな飲み物を選び購入される方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望された時は、施設の電話を使用して頂いている。携帯電話を所持されている方もいる。遠方の身内から郵便物や宅配が届くと、直接渡している。希望があれば手紙を書く支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔にしている。リビングからは田畑の景色が見え、鳥の鳴き声が聞かれる。季節の花を飾ったり金魚など飼ったりしている。キッチン前のカウンターでは、様々な飲み物を用意し、好きな物が飲めるように工夫している。	各ユニットの玄関にはポストや下駄箱が置かれ使用されており、リビングの大きな窓からは豊かな田園が広がり、四季折々の風景を楽しむことができる。季節の花や作品などが過度にならない程度に飾られており、掃除や温度調整も行き届いている。リビングには食事用としてのテーブルやソファが置いてあるが、今後は入居者が多くの時間を過ごす共有空間の設えについて整えていきたいと考えている。	共有空間には随所に花を飾り、心和むアットホームな雰囲気づくりが行われている。今後は、一人ひとりの家での過ごし方、馴染みのものなど、それらの情報を活かしながら、家具の配置等を入居者と一緒に考えて、居心地のよい場を整えていかれることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓際で外を眺めたり、ベランダの花に水をあげたり、リビングの窓際のソファで新聞を読まれたり、気の合う人同士でお話をされたりして過ごすことが出来る居場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からテーブルや椅子、タンスや炬燵、寝具や趣味の道具など持ち込まれている。安全面も配慮しつつ使いやすいようにして頂いている。家族の写真を飾るなどくつろげるようにしている。	居室にはベッドと洗面所、整理ダンス、空気清浄機が備え付けられている他、床暖房で寒い冬でも暖かく過ごせる環境となっている。居室づくりは本人と家族が主体的に行ってもらえるよう働きかけており、自宅からは馴染みの家具や愛用の寝具、思い出の品々が自由に持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。居室の掃除は、一人ひとりでできる力を大切にしながら職員と一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には物を置かないようにし、居室入口やトイレには手摺りが有り移動が安全に出来るようにしている。表示や掲示物はシンプルで分かりやすいようにしている。ベッド柵などその方にあった物を選んでいる。		